

ミニ MBA 塾受講の推薦—前例なき時代を生き抜くみなさんへ

「2011 年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65%は、大学卒業時(2027 年)に今は存在していない職業に就くだろう」

この米デューク大学/キャシー・デビットソン氏のニューヨークタイムズのインタビュー記事は衝撃的だ。だが冷静に考えれば日本においても十分にリアリティのあるシナリオである。2027 年と言えばわずか 12 年後。現時点で 50 歳を超えている方々はこれまでの経験の延長で定年まで全うできるだろう。しかし今 40 代以下の方々にとっては、これからのビジネスマンに求められる要素が今までと抜本的に異なる時代が来るということを強く自覚しておいた方がよい。

これまでの学校教育及び受験界の問いには基本的に「正解」があって、その「正解」にいかん短時間で正確にたどり着けるか、が優秀さの尺度であった。会社務めにおいても入社 10 年目くらいまでの仕事というのは、恐らく社内に模範解答（事例）があって、その模範解答に効率よくクオリティ高く仕上げられる人間が優秀と評価される。

しかし、これからの時代に模範解答はない。自分で情報を集め、自分のアタマで深く思考し、未来を予測し、リスクを想定しながら、進むべき道を意思決定し、実行する。これを短期間で繰り返すのだ。そういう力はただ単に会社と家を往復しているだけでは決して身につかない。多くの会社員は機能別組織の一機能を担当しているからだ。もし、あなたが将来ビジネスにおいてリーダーシップを発揮されたいとお考えなら、ワーク以外の時間を使って幅広い知見を得る為の努力をするしかない。

人間の脳は、全く知らない情報にはあまり反応しないそうである。例えば日経新聞を全ページ開いてみて、自分の脳が反応するニュースは一体いくつあるだろう。それが今のあなたの現実だ。

大変僥倖ながらミニ MBA 塾の私にとっての価値を述べてみたい。

- ①テキスト&授業で強制的に経営全般についての知識の裾野を広げ、
 - ②広がった関心領域に関連する記事を自身のセンサーでキャッチし、
 - ③そのニュースからの学びと自社の置かれた状況との関連性を無理繰りでもレポートにして論じ、
 - ④他者の意見から一つの事象に対する色々なモノの見方を知る。
- これを繰り返すことで、経営的な脳の使い方のトレーニングができることだ。それから大住先生の生の海外からの視点を数多く聞いたことも私にとっては貴重だった。

これからの前例なき時代を生き抜く皆さん、このミニ MBA を足掛かりに更に高く広い世界を目指して躍進していかれることを期待しています。

迷ったら Go !